

物質工学連合部会第14回デザイン分科会 議事録

期日：平成12年6月22日（木）～6月23日（金）

会場：山口県産業技術センター
（宇部市あすとぴあ4丁目1の1）

■ デザイン分科会本会議 …………… 13：30～15：20

1 開 会

司会 山口県産業技術センター 専門研究員 池末純一

2 挨拶

- ・開催機関長 山口県産業技術センター 所長 川元興賢
- ・分科会長 兵庫県工業技術センター次長
兼) 兵庫県産業デザインセンター所長 加藤敏春

3 議長選出

議長 山口県産業技術センター デザイン部長 佐藤幸治

4 議 事

1) 指示連絡事項

(1) 物質工学連合部会の再編について（物質工学連合部会総会報告）

デザイン分科会長 加藤敏春

物質工学連合部会の事務局である物質工学工業技術研究所の組織体制が流動的なので、結論は出ていない。

現在、案1、案2に示すような方向で検討されている。

（案1は、物質工学連合部会の枠組みにこだわらず、技術分野別の分科会活動を中心にして抜本的な再編をするもの。

案2は、現行の連合部会の枠組みを維持して、分科会の再編をするものである。）

また、地方部会については各地域の自主性を尊重する。現状は以下の通り。

東北北海道地方部会……………継続して存続

関東甲信越静岡地方部会……………平成12年度より地方部会としては廃止。

東海・北陸地方部会……………アンケート調査結果としては地方部会

廃止という意見が多かったが当面は存続。

近畿地方部会・・・・・・・・・・平成 11 年度で休止。

中国・四国・九州地方合同部会・・・・廃止

2) 提案要望事項

(1) デザイン分科会のメーリングリストの活用について

宮崎県工業技術センター 鳥田

情報交換のツールとしては非常に有効な物であり大いに活用していきたい。
しかし、メーリングリストに参加できない機関や、参加していない人もあること
から、分科会体勢の決定など重要事項の決定などには使用しないで欲しい。

[決] 重要な決定事項は分科会で決定する。

(2) デザイン分科会のメーリングリストへの登録について

山口県産業技術センター 池末

インターネットを利用可能なデザイン分科会参加機関は、少なくとも 1 人（デザ
イン部門を代表する人は）、デザイン分科会のメーリングリストに参加するよう
にしてはどうか。

[決] デザイン分科会長として、未加入の機関へ加入申し入れをすることで合意。

(3) デザイン分科会のホームページについて

長野県情報技術試験場 吉田

物質工学連合部会のホームページがありその中にデザイン分科会の情報の一部を
公開してきた。

<http://www.nimc.go.jp/b-rengou/index-j.htm>

これらのホームページをもっと積極的に活用して情報交換を活発にしてはどうか。

山口県産業技術センター 池末

高知県の仲村さんの協力によって分科会の過去の議事録などが高知県のサーバーに置かれている。

<http://www.kochi-kg.go.jp/~nakamura/hp/b-rengo/agenda.html>

当面はこれをデザイン分科会の公式のホームページにしたらどうか。

高知県工業技術センター 仲村

当初は多くの情報を入れる計画ではなかったが、各県の協力により現状まで拡大した。しかし、ホームページの管理については、当センターの仲村管理ディレクターのみ認められており、私としては公式ホームページとせずに、半公式にして、みんなが利用できる情報を置いているということにしていきたい。

ネットワーク環境下では、一ヶ所に情報が集約されている必要はないと思う。

〔決〕高知県の仲村さんが作成しているデザイン分科会のページについて、半公式のデザイン分科会のホームページとする。

(4) 秋の研究発表会の発表者選出方法について

群馬県工業試験場 丸

研究発表会の発表機関の選出に、開催県が苦心する事が多いようである。ブロック化が決まれば、各地域ブロックで1名（または、分散研究会から2名）の発表者を選出することをルール化して欲しい。

(以下のような、様々な意見が出された)

誰が指名されても指名された人が必ず出席できるとは限らない。毎回同じ研究者が出席できるかわからないので、このルール化されても成立しないのではないか。

実際には開催県は苦労している。開催時点まで出席者、発表者が決まらないというのを踏まえた上で、個々に当たるのではなくブロックや研究会で出張を含めて事前に検討することができるのではないか。

積極的にやって行くからこそ意味があるのではないか。誰が出席できるかわからないという各県の事情もあると思うが、部会や研究会で検討してもいいのではないかと思う。

毎回研究発表会が成立するかどうかでぎりぎりの調整をしている。開催事務局の意向に添ってできるだけ前向きに考えて欲しい。

最初から頭割りで人数を決められると難しいが、秋の分科会に向けて、部会、研究会で検討することについては賛成。

基本的に分科会の開催方法は開催県に任せる方向なので、開催県のやりたいうようにやっていいのではないか。ルール化しない方がいいのではないか。

研究発表の希望があれば早めにあげていただく、発表数が少なければ部会や研究会で調整してはどうか。

研究会への参加は、参加者が自由にその都度入りたい研究会を選んで参加している。研究会のメンバーは決して固定的に入っているわけではないので、研究会でのとりまとめは難しいのではないか。

[決] 開催県の負担はあるが、発表者募集の呼びかけを早めに行うなど募集方法を工夫することにより発表者の調整をして欲しいという意向が現時点では強く、群馬県からのルール化の提案は見送られた。

3) 分科会の運営について

<経緯および提案骨子の説明>

分科会長（兵庫県工業技術センター） 加藤／真鍋

これまでデザイン分科会長の選出方法について明文化されたものがなかった。

分科会活動の負担の均一化と組織強化のために、ブロック体制および輪番制の確立を根幹としたデザイン分科会の組織体制を提案する。

案1は、吉田前分科会長が、Eメールなど通じてとりまとめたものである。

案2は、案1をベースにして、組織運営を補佐する意味で副分科会長など勘案したものである。

〔決〕案2を承認した。（青森県からの修正提案も勘案して今後は進めて行く。）

訂正事項（分科会長から）

幹事会の制定について： 4研究会代表幹事→4研究会代表（幹事を削除）
会長の業務について： 会議の議長を行う→開催県が議長を行う。

<参考>青森県工業試験場からの案2に対する補助提案

各ブロック代表者7名→ブロック幹事7名
4研究会代表幹事から代表1名→削除
会長任期2年、副会長1年→会長及びブロック幹事の任期2年、副会長1年
任期は分科会開催から1年間とする→削除
ブロック幹事の選出については7ブロックから1名ずつ選出する。（ただし、研究会の代表幹事はブロック幹事を兼ねること）
ブロック内に研究会代表幹事が複数の場合は、会長と協議して決定する。
ブロック幹事の業務について：「分科会活動の企画調整並びにブロック内の連絡を行う」を追加。

（質問）ブロック幹事はどのように選出するのか？

（分科会長）各ブロック構成県の横の連絡でと考えている。輪番制が前提となる。

各ブロックから代表者（1名）の選出をお願いします。

4) 各研究会からの報告

CAD・CG研究会 …………… 鳥取県産業技術センター 清水
各県の機器リストを今年度作成したい。
他の研究会からは特になし。

5) 来春開催地について

静岡市に決定

6) その他

- * (財) 日本産業デザイン振興会 田中振興事業部長

G マーク WEB を活用して欲しい。

メールが利用できるようになりました。

US デザイントレンドの資料を持ってきたのでアメリカのデザイン事情について紹介したい。

- * (社) 人間生活工学研究センター 鈴木専務

人体寸法に関するデータベースの構築を行っている。特に高齢者のデータベースが充実してきているので是非活用して欲しい。

- * 兵庫県工業技術センター 真鍋

物工連の分科会登録の集計で、デザイン分科会として活動していても〇が入っていない機関があるようだが、これは登録ミスであろう。抜けている場合は連絡して欲しい。

■分散研究会 …………… 15 : 30～16 : 30

(4 研究会に分散し、幹事が進行役となり情報交換を行った)

(各研究会幹事の作成した報告を下記に掲載)

- CG・CAD 研究会 (司会：鳥取県産業技術センター 清水 (幹事))

<各県の活動状況>

- 吉田 (長野県情報技術試験場)

昨年度の分科会で提案のあった共同研究の進捗について報告があった。

福祉技術部会へ提出するようなテーマとなり、独立して担当ベースで進行する研究へと変わっていった。

県財政が逼迫し、研究費の融通が利かなくなった。

NEDO に提出した公募研究が採択された。

○清水（鳥取県産業技術センター）

接触式の三次元測定装置（MicroScribe）は、安価だが有効活用している。

DV・ノンリニア映像編集システムを導入。

○梶井（石川県工業試験場）

システムがスタンドアロンで稼働していて、計測は計測、CAD は CAD といったように、互いに連携して仕事ができる状態になっていない。

ルアーのような小規模のリバースエンジニアリングは行っている。また、ハンガーの開発では、リプロダクト用にリバースエンジニアリングを研究している。

全体的に、工業関係は少なく工芸関係が多い。

○高（石川県九谷焼試験場）

焼き物のシルクのパターン作りに Mac を利用している。曲面への絵付けの展開図が作成できるソフトを知らないか。

○山本（愛媛県工業技術センター）

主にタオル地に織り込む絵柄を Mac で作成しているので、Mac 上で制作できる CG システムの導入を考えている。

○遊免（伊勢市工芸指導所）

現在、インターネットやメーリングリストを利用できる状況にないのが残念。

○泉（島根県産業技術センター） 来年夏に移転。

「ものづくり事業」で、光造形機や三次元スキャナなどを導入した。

郵政省関連のギガビット研究開発事業について、昨年 8 月に認可を受けた。

○旅田（和歌山県工業技術センター）

2003 年、新センターができる。

「デジタルメディア研究会」をこれまで 2 年間実施した。

○町田（埼玉県工業技術センター）

評価に使える自動配色システムを開発中。

○辛川（佐賀県工業技術センター）

家具の産地、大川ではCG が有効に使われている。

○佐藤（熊本県工業技術センター）

OA 機械技術の関連では、CAD が活用されているが、デザインの部門ではまだまだである。

○畠中（人間生活工学研究センター）

人間生活工学研究センター（HQL）が開発したコンピュータ上で年齢性別体格などのパラ

メータによるシミュレーションを可能とする「コンピュータマネキンの紹介。

○藤牧（神奈川県中小企業経営センター）

センターの行っている研究と中小企業のニーズが合わなくなってきているような気がする。

中小企業との連携について考えているところ。

Web とかインターネットに関する相談が増えている。

<まとめ>

全般に、CG ・CAD ツールがある程度の普及をしている現状がある中で、センターの研究費が削られる方向であり、いかにして研究費を捻出するかが今後の課題であると認識した。

滞っている「全国公設試 CG ・CAD ツール」の Web ページを今年度中に作成することを約束し、閉会した。

●ネットワーク研究会（司会：高知県工業技術センター 仲村（幹事））

<研究会全般>

デザインメールリングリストの活用：現在、750 件のメール送受信。

メール発信者には偏りがあるが、情報共有の点では問題ではない。

Web サイトの活用：「Rengo-Design-Box」デジタル書庫にデータ蓄積。

部外者が閲覧できる部分では、極力メールアドレスなどの個人情報隠す。

ネットワーク研究会を、コンピュータ・ネットワークだけではなく、産学官連携なども含め、
広範囲でとらえている。

<各県の活動状況>

○仲村（高知県工業技術センター）

平成 11 年度より土佐山田分室（産業構造改善支援センター）がオープン。
無線 LAN を利用して、布師田と山田を接続。

設置当初は良好。しかし、南国市を中心とした無線ネットワークや防災無線が急速に拡大したため、互いに干渉して問題となっている。

NEDO 関係他、産学官連携事業が 5 件進行中。

「地域型のナレッジデータベースの構築」や「コールセンター計画」を進め、全国ネットワーク型の産業支援体制の確立が必要。

○石川（青森県工業試験場）

「ものづくり支援センター整備事業」後の 4 年間の業務が大変。
研修実施や設備利用実績、マスコミ広報など。

新設機器に、樹脂造型装置とレーザー彫刻機があり公開可能。

教育関連のギガネットワークに今年中に接続予定。

○佐藤、水沼（山口県産業技術センター）

現在、図書館のデータベースのようなものではなく、デザイン開発に利用できるような「デザインデータベース」が作れないか計画中。（デザイン会社や学校でも利用できるもの。TAO（郵政関係機関）補助金。）

県の特徴としては、素材産業が強い。

中小企業の弱点ともいえる新製品の市場性への対応が必要。

○頭師（静岡市産業振興部地域産業課）

技術センターと組織的に異なるが、ネットワーク技術を参考にしたい。

業界支援として静岡市の財団でバーチャルモールを開設。

○岡野（広島県立東部工業技術センター）

50 人体制。今年から、センターのネットワーク関係。

加工部門で広域研究に取り組んでいる。

XML による加工機械との連携など。

○本庄（茨城県工業技術センター）

墓石のデータベースを作成中。ネット上で利用できるものを。
どの地方にも石材業があり公開されれば参考になる。

○川口（佐賀県工業技術センター）

センター職員が利用している所内データベースを紹介。
平成 11 年度にネットワーク運営委員会（現在 6 名）を組織。
予算、今日の出張者、指導・相談、企業情報など 14 が稼動中。
オフィスウェアとして、ファイルメーカーPro. 4 のソフトを利用。

○野上（滋賀県工業技術総合センター）

信楽焼のデザイン CG システムを開発、高機能化（図面作成、容量計算）を図ったが、普及が問題でまだあまり利用されていない。
市販 CG ソフトでは難しい操作性を特化することにより良くしているが、まだ生産者とギャップあり。

● 地域デザイン振興研究会

（司会：神奈川県産業技術総合研究所工芸技術センター小堀（幹事））

<各県の活動状況>

○小堀（神奈川県産業技術総合研究所工芸技術センター）

今年業界が総力を上げている「小田原・箱根木製品フェア 2000」のイベントに関する全国「木のクラフトコンペ」の募集要項を持参したので PR していただきたい。

○小林（岩手県工業技術センター）

今回始めて参加したため状況が解らないのでパンフを持参した。
※参考資料：北国デザインワークショップ、でざいんいわて

○大久保（福井県工業技術センター）

20 年ぶりに参加したため浦島太郎になってしまっている。皆さんと情報交換をして帰りたい。

○坂下（大分県産業科学技術センター別府産業工芸試験所）

○豊田（大分県産業科学技術センター別府産業工芸試験所）

6年前に再編整備が行われ、現在工芸関係では竹の活用について車椅子の開発などを研究している。

○山野（奈良県工業技術センター）

現在デザイン担当者は2名しかおらず、その1名が企業研修（大和ハウス）に1ヵ月行っている。

○佐藤（宮城県産業技術総合センター）

以前は業務内容が解りにくかった班の名称が今年度から変わり、デザイン設計技術班となった。

また、同僚の永山氏が高専の講師となり退職したため、1名欠の状態なので現在募集中である。

○丸（群馬県工業試験場）

設備機器予算は十分にあるが、デザイン担当者が1名なので苦勞している。

平成14年度に産業技術センターとして開所する予定である。

○森本（山梨県工業技術センター）

10年ぶりに参加した。現在は研修事業等が中心で学校の先生みたいな仕事をしている。

当センターもデザイン担当者が1名減であるため、現在募集中である。

○岸（鳥取県産業技術センター）

今回始めてデザイン分科会に参加した。本業は塗装関係であるが、デザインに配置換えになった。

また、田上氏が職業訓練校に移動した。

○神杉（山口県商工労働部商政課）

商工労働部の行政担当者として勉強のために参加した。

○田中（日本産業デザイン振興会）

行政の全国デザインセンター会議を主な業務としているが、地域の方と協力して儲かるようなビジネスチャンスを多くしたいと考えている。

現在一人で何もかもやっているため、日本産業デザイン振興会は最近冷たいのではないかと思われているので、もう一度30代の時のように「燃えたい！」と思う。

○後藤（旭川市工芸センター）

現在、業界・教育委員会等と共に学童用の椅子の開発に取り組んでいる。また、これからの課題として高齢者の椅子の開発も検討している。産地事情としてはクラフト製品の売れ行きが悪く苦戦している。

○木山（和歌山県工業技術センター）

3年前に県の再編があり工業技術センターの内部組織としてデザインセンターが出来た。主な業務としては「デザイン相談・指導のご案内」の資料を持参したので見ていただきたい。

○川口（滋賀県工業技術総合センター信楽窯業試験場）

しばらく行政の方に出ておりやっと戻って来た所である。今後お付き合いを願いたい。

○鳥田（宮崎県工業技術センター）

宮崎県工業技術センターは昨年4月に新規オープンした。現在は若手デザイナーと組んだ事業展開に力を注いでいる。

<山口県の地域デザイン振興について>（山口県産業技術センター 中西）

- ・県の重点施策項目に乗った研究テーマの選定
- ・デザイン振興に関する予算が大幅に縮小されたこと
- ・伝統工芸産地の弱体化、公設試との連携の難しさ
- ・広域での新たなデザイン振興事業の必要性

<自由討議>

○田中（日本産業デザイン振興会）

地域にデザインセンターができているが、デザインセンターでのデザイン振興業務と試験場のデザインとではどのような役割分担がなされているのか。

振興会としては地方産業に対する支援をここ数年やってきていないが、今後は地方への支援を考えている。

○木山（和歌山県工業技術センター）

和歌山県ではデザインセンターは工業技術センターの中にはない。海南市にある和歌山リサーチラボの中にある。

従って海南市を中心とした漆器、日用品、家具などのデザイン振興業務が中心。

<研究会幹事の選出>

山口県産業技術センター中西氏が次期の研究会幹事に決定

●生産デザイン研究会（司会：東京都立産業技術研究所 三好（幹事））

<挨拶と研究会名についての意見>

○東京都立産業技術研究所三好

生産デザイン研究会発足当初は工芸が中心であったが、近年ではバリアフリーやユニバーサルなどがテーマの中心となってきたため、研究会の名前と内容がずれてきている。名前を変更する必要があるのではないか。

<各県の活動状況>

○平松（広島市工業技術センター）

広島県グッドデザイン賞の報告。在宅介護用の折りたたみ式簡易浴槽を開発中。来年商品化の予定。

ユニバーサルデザインの鍋のデザイン開発が進行中である。

○小野（青森県工業試験場青森木工分場）

ヒバ材を使用した木製玩具の開発を行っている。ズギ材を使用したダイニングチェアを開発。

木材の破材の有効利用を検討中。

福祉についてはまだ行っていない。

○市川（京都市工業試験場）

2年前からユニバーサルデザイン講習会を行い、理解を深める活動を行っている。参加者は約20名。

○西村（大阪府立産業デザイン研究センター）

「高齢化・福祉」関連分野の研究・開発促進事業（10事業）や、高齢社会対応型産業育成支援セミナーを行っている。

○内山（静岡県デザインセンター）

ユニバーサルデザインを行う企業の実態調査や、デザイナーを対象としたユニバーサルデザイン研修、またユニバーサルデザイン推進研究会を行っている。

○澤田（島根県産業技術センター）

新規採用の挨拶と、職場の説明。今後において人間工学を切り口とした福祉関連研究を予定している。

○糺谷（栃木県工業技術センター）

畳の上で使用する、リハビリ効果を有するロックングチェアの開発を行った。

○藤井（山口県産業技術センター）

人間工学的評価方法を用いて、在宅介護用シャワー浴装置を開発中である。

○鈴木（（社）人間生活工学研究センター）

人間中心の製品企画、ユーザ行動や使用状況の的確な把握など、ユーザ重視の製品づくりが重要。またそのような手法や人間工学データは、製品開発の早い時期から導入する必要がある。

今後においては製品開発プロセスの評価が重要であり、その結果はかたちとなり製品デザインに表れる。

人間工学とデザインとが手を取り合うことが、よりよいものづくりに必要である。

（以上、分散研究会の議事録）

■全体会議 …………… 16：30～17：00

1 各研究会から報告

2 次期開催地について（挨拶）

次期開催地	群馬県	群馬県工業試験場	丸 秀樹
来年度開催地	静岡県	静岡県産業振興部域産業課	頭師雅之

3 その他

スケジュールなどの説明

4 閉会

■ 現地研修

- ・ 宇部市屋外彫刻美術館 …………… 9 : 00～10 : 00
(宇部市沖宇部 254)
- ・ 山口県産業技術センター …………… 10 : 30～12 : 00
(宇部市あすとぴあ 4 丁目 1 の 1)

閉会挨拶 山口県産業技術センター次長 菅野 能久

解 散

以上

*** 池末純一 ***

<http://www.iti.pref.yamaguchi.jp/>

山口県産業技術センター(デザイン部 専門研究員)

〒755-0151 宇部市あすとぴあ Tel(0836)53-5055 Fax(0836)535071